

## 地域再生計画

### 1 地域再生計画の名称

道の駅「ごいせ仁摩」を最前線拠点とした大田市の魅力発信による観光振興計画

### 2 地域再生計画の作成主体の名称

島根県大田市

### 3 地域再生計画の区域

島根県大田市の全域

### 4 地域再生計画の目標

#### 4-1 地方創生の実現における構造的な課題

当市には、世界遺産石見銀山遺跡や国立公園三瓶山をはじめとする世界に誇れる観光資源や、石見神楽に代表されるこの地域に暮らしてきた人々が育んできた貴重な伝統文化、日本海の新鮮な海産物や三瓶山麓で育った農産物など、多様な地域資源が存在し、これらを活かした取り組みが各地で行われている。

しかしながら、現状においては、東西に広い市域や地理的な特性から、広範囲に点在しているためまとまりに欠け、それぞれの知名度は低く、多くの人に魅力が伝わっていない状況にあることが課題となっている。

国内外から多くの人を呼び込むためには、点在する地域資源を結びつけるとともに、地域資源を守り、活かす「人」にも注目し、年代を超えた住民同士や事業者間、市内外のつながりや交流を促進することで、さらなる地域の魅力向上が必要である。

交通アクセスについては、東西に長い島根県の県央にあって、当市中心部まで車で出雲空港から約1時間強、島根県を代表する観光スポット出雲大社からは約50分、市中心部から市主要観光スポットまで20～30分、JRは単線で1時間に1～2本、バスの便数や停留所も限られている状況である。

当市の観光産業において主要な移動方法は自動車であるが、現在山陰道の整

備が進められているものの、市内においては現段階では未開通区間が多く、東西を結ぶ主要幹線道路は国道9号のみであり、国道9号が事故等で封鎖された場合迂回が困難な状況である。

山陰道（無料区間）が開通した場合、島根県東部から当市中心部までは約20分程度、本施設まで約30分程度の移動時間短縮が図られ、当市への誘客が図りやすくなる。

そして、県内の道の駅で構成する「島根県道の駅交流会」の取り組みとして、県内各道の駅による共同情報発信や広域周遊ルート提案、また利用者にも有益なスタンプラリーや地域フェアなどの連携イベントにより、移動時間短縮効果による周遊と誘客を図っていく。

情報発信に関しては、当市や観光協会等によるホームページやSNS等での発信は行っているが、実際に当市へ来られた方が大田市の総合的な情報を得る場は少なく、市内観光施設へのガイドンス機能が非常に弱いため、この強化が急務である。

地方創生推進交付金の取り組みにおいても、【国立公園「三瓶山」を核にした観光振興】により三瓶山の魅力を一層引き出すプログラム開発に取り組んでいるものの、プロモーション手法が弱く、更なる充実・強化が求められる状況である。

パンフ等での単なる情報発信ではなく、本施設での観光協会が常駐した観光コンシェルジュにより、短時間でも楽しめる持ち時間に合わせた周遊ルートや体験コースなど、きめ細かな観光プログラムの提案をすることで、観光客の満足度の向上とリピーター・ファンの獲得に繋げる必要がある。

【大田市産品販路拡大重点支援事業】についても、市産品の県外への販路拡大やアナゴのブランド化といった取り組みの情報発信は行っているが、市内来訪者に実際に販売したり、味わってもらえることのできる施設が少なく、そのガイドンス機能も弱いため、本施設を拠点として特産品や食の提供による発信を行い、地域商社的な機能を果たして販路開拓に繋げ、外貨を獲得する必要がある。

一方、当市の人口は毎年500人以上が減少している。

とりわけ男女とも20～24歳の人口が最小値であることから市外の大学進学等に伴う人口流出が人口減少の最大の要因となっていると考えられる。

市外の大学進学等に伴う人口減少の理由としては、高校生の地元産業の認知度が低く、魅力が十分伝わっていないことが挙げられる。

このために、地域の担い手を確保し、将来に渡って持続可能な地域づくりを進めるには、雇用の受け皿拡大はもちろん、地域の魅力を知りふるさと愛を育む、ふるさと教育を推進することが必要である。

具体的には【大田の未来を切り開く人材の育成・確保促進プロジェクト】において取り組んでいる地元企業の情報発信やキャリア教育支援に加えて、社会体験や地域との交流の機会を創出し、本施設を社会体験と地域交流の場として最大限活用し、ふるさと教育を協力で推進する必要がある。

#### 4-2 地方創生として目指す将来像

##### 【概要】

豊富な観光資源を有する当市において、外貨を獲得でき、また飲食業や加工業など各分野にも影響を及ぼす観光産業は重要な産業であり、当市としても観光振興に注力してきたところである。

しかしながら近年では観光客入込数は減少し、これを拠り所としていた当市の産業は低迷を続けている。

地方創生推進交付金の取り組みにおいても、「国立公園「三瓶山」を核にした観光振興」により三瓶山の魅力を一層引き出すプログラム開発に取り組んでいるものの、プロモーション手法が弱く、現段階では思うような集客効果に繋がらず、更なる取り組みが必要である。

推進交付金事業【大田市産品販路拡大重点支援事業】についても、市産品の県外への販路拡大やアナゴのブランド化といった取り組みの情報発信は行っているが、市内来訪者に実際に販売したり味わってもらうことのできる施設が少なく、ガイドンス機能も弱いため、市内来訪者に実際に販売したり味わってもらうための施設の拡充が求められる。

推進交付金事業【大田の未来を切り開く人材の育成・確保促進プロジェクト】についても、地元就職の人材確保のためキャリア教育支援等に取り組んでいるところだが、高校生の地元産業の認知度が低く、その魅力が十分に伝わっていない課題があることから、社会体験や地域との交流の機会をさらに創出し、ふるさと愛を育む環境を充実させることが必要である。

当市の地域資源としては、大森地区で世界に誇れる貴重な文化遺産「世界遺産石見銀山遺跡」、三瓶地区では雄大な自然を感じる「国立公園三瓶山」や太古の巨木「三瓶小豆原埋没林」、仁摩地区では世界一の砂時計「仁摩サンドミュージアム」や国天然記念物「琴ヶ浜」の鳴り砂、その他にも島根県が推進する「美肌観光」と親和性の高い数多くの温泉、海水浴場やキャンプ場など、海に山に豊富な観光資源に恵まれている。

また、「ノドグロ」や「カレイ」などブランド化された「一日漁」（下記※参照）に代表される日帰り漁による新鮮で美味しい日本海の高産物、日本でもトップクラスの漁獲量を誇る「大あなご」、新鮮な魚を使った魚版すき焼き「へか焼き」、雄大な三瓶山麓で育った「三瓶蕎麦」、「石見銀山和牛」に代表される和牛肉、大田市の郷土料理「箱寿司」や「天ぷらまんじゅう」など、他に誇れる食材や食文化にも恵まれている。

さらに県西部である石見地方に伝承される伝統芸能「石見神楽」は、石見地域の自治体共同で「神々や鬼たちが躍動する神話の世界～石見地域で伝承される神楽～」をストーリーとして令和元年度に日本遺産に認定され、大田市内でも多くの社中が活発に公演しその伝承に取り組んでいる。

これらの豊富な当市の魅力を現地の最前線拠点として効果的に発信し市内への誘導を図るため、また推進交付金での取り組みを実践するため本施設の整備が必要であり、パンフ等での単なる情報発信では無く観光協会が常駐した観光コンシェルジュによるきめ細かな観光プログラムの提案、物販コーナーやレストランでの地域産品のPRと地域商社としての市外県外への販路アプローチ、学校との連携による生徒の社会体験や地域との交流によるふるさと愛の醸成など、なお一層推進交付金の取り組みを推進していくものである。

これらの取り組みへの追い風として、現在島根県内において着々と山陰道の整備が進んでおり、大田市内は令和5年度、県東部は令和6年度に開通と予定

されている。

この山陰道が開通すれば、豊富な観光資源を有する大田市へのアクセスが格段に向上し、交流人口の拡大による産業振興・地域振興の絶好の機会となる。

一方で、山陰道が開通することによって東西の往来がスムーズとなり、利便性の向上と引き替えに無料区間である大田市内は素通りされてしまうという懸念がある。

そこで、山陰道開通による大田市へのアクセス向上という絶好の機会を最大限に活かして、大田市のゲートウェイとして山陰道利用者の引き込みと市内への誘客を図り、交流人口の拡大と地域の活性化に繋げるため、産業振興・地域振興の起爆剤として道の駅「ごいせ仁摩」を整備する。

また、冒頭で述べたように当市には世界に誇れる様々な地域資源や、それを活かした取り組みが各地で行われているが、広範囲に点在しているためまとまりに欠け、個別の活動となっているため発信力に課題がある。今回整備する道の駅は市外来訪者にとって最初の目的地となる施設を目指しており、そこに市内の農産物、特産品、伝統芸能、地域住民や事業者、農林大学校や高校などが集約し、交流を深め、販売やイベント運営などを行うことにより、豊富な観光資源、食や特産品、伝統文化といった大田市の魅力を地域一体となって効果的に発信することができ、更には、山陰道開通により車での移動時間が短縮されることから、島根県の県央で石見部の東端に位置する道の駅として、東西の交流結節点の機能を果たし出雲部へ集中する観光客を石見部へも足を伸ばしていただけるよう誘導していく。

そのためにはまず本施設へ立ち寄ってもらうことが重要となり、山陰道が開通する前の出来るだけ早期に整備し開業することで、本施設のきめ細かな観光提案機能、特産品販売や食、地域が一体となって創り出す賑わいやイベントなど、本施設の魅力を道路利用者に周知し認知度をあげ、「休憩するならごいせ仁摩！あそこへ行けばなにかがある！美味しい！賑やか！楽しめる！」といったイメージを定着させリピーターやファンを獲得し、他地域への観光目的やビジネスマン等の通過者等に対しても、移動時間短縮効果による時間に合わせた市内周遊ルートの提案や、次回余暇での来訪提案などにより、市内への周遊を誘導していく。

そして、様々なジャンルの人達が集まり、地域の特産品や農林水産物を販売し、新規商品の開発や規模拡大を促すことで経済の好循環をもたらすとともに、道の駅の交流人口が拡大することに合わせ、地域住民や青年・女性団体、学校等がイベントや出店など道の駅の運営に積極的に参画し、ふるさと愛を育みながら地域をあげておもてなしをすることで、地域の活力の向上や生きがいがづくり、地域の担い手の育成・確保に繋げていき、「豊かな価値観」を市民全てが共有し共鳴し合う、未来へ繋がる持続可能となるまちづくりに取り組み、県内周遊観光の中核拠点都市を目指す。

※一日漁・・・早朝に漁へ出港し、近海で漁を行い、その日の夕方に水揚げする漁の形態。かつては全国各地の漁港でも行われていたが、1960～70年代に冷凍技術が発達し、船内冷凍の出来る大型船で数日かけて効率よく漁をする沖合漁業に取って代わり、今では北陸地方の一部と当市だけに残る希少な漁法となった。漁当日に水揚げするため鮮度と品質は抜群で高い評価を得ており、新鮮な一日漁の魚を求め山陽や関西方面からも買い付けがある。地域の魚商人等の有志でブランド化と保存に取り組んでいる。

#### 【数値目標】

| K P I                               | 事業開始前<br>(現時点) | 2020年度増加分<br>1 年目 | 2021年度増加分<br>2 年目 |
|-------------------------------------|----------------|-------------------|-------------------|
| 道の駅「ごいせ仁摩」利用者数<br>※レジ通過者数 (千人)      | 0              | 0                 | 130               |
| 大田市への観光客入込数 (千人)                    | 1,110          | 0                 | 190               |
| イベントや賑わい広場への地域住民・<br>団体等の延べ参画者数 (人) | 0              | 0                 | 400               |

| 2022年度増加分<br>3 年目 | 2023年度増加分<br>4 年目 | 2024年度増加分<br>5 年目 | K P I 増加分<br>の累計 |
|-------------------|-------------------|-------------------|------------------|
| 150               | 50                | 30                | 360              |

|     |     |     |       |
|-----|-----|-----|-------|
| 230 | 70  | 40  | 530   |
| 500 | 200 | 100 | 1,200 |

## 5 地域再生を図るために行う事業

### 5-1 全体の概要

5-2の③及び5-3のとおり。

### 5-2 第5章の特別の措置を適用して行う事業

#### ○ 地方創生拠点整備交付金（内閣府）：【A3007（拠点整備）】

##### ① 事業主体

2に同じ。

##### ② 事業の名称

大田市の魅力発信最前線拠点・道の駅「ごいせ仁摩」整備事業

##### ③ 事業の内容

- ・「大田市の魅力発信最前線拠点」をコンセプトに、大田市の産業振興・地域振興を図る交流拠点として道の駅「ごいせ仁摩」を整備する。
- ・本施設の観光案内所や情報発信コーナーで、冒頭で挙げた当市の様々な魅力を映像も交えながらきめ細かに発信していき、観光客や地域住民、山陰道利用者といった道の駅利用者の満足度を向上させ、リピーター、更にはファンを創り出す。

本施設には観光協会が入居する計画であり、その窓口である観光案内所には観光コンシェルジュを配置して、単にパンフ等による情報発信ではなく、当市の地域資源の魅力を存分に伝える映像を交えた発信や、短時間でも楽しめる持ち時間に合わせた周遊ルートの提案、利用者の嗜好に合わせた穴場や体験等（三瓶山プログラムの「草木染め」や「わさび田での収穫」、「木工体験」等）の提案など、きめ細かな観光プログラムを発信・提供する。

併せて、本施設を観光協会による「大田市版DMO」を展開する拠点とし、「本物志向・健康志向・アクティブな活動を好み、パワーを与え養う時間と場所を求めている」30代女性をメインターゲットに、

アプローチをかける。

- ・特に自家用車や観光バスでの来訪が主である当市の観光については、山陰道で往来する利用者への情報発信が重要であり、山陰道開通で短縮された移動時間の短縮分で周遊できるルート提案や、次回の観光目的地となるような興味を引く提案が必要となる。

本施設へ立ち寄った利用者へ観光情報や周遊ルートを提案し、その歴史や壮大なロマンを実際に現地で見えて体験していただき、その魅力を来訪者自ら発信していただけるようなファンを作り上げていく。

- ・本施設の物販コーナーで当市の特産品や農産物、日本海の新鮮な海産物等を販売し、またレストランでは地元食材をふんだんに使った食の提供をすることで、当市の魅力の発信とファン獲得を図る。

特にレストランでは「一日漁」ブランドに代表されるアナゴやノドグロといった新鮮な魚介をメインに、当市の漁の形態や美味しい海産物、併せて米や野菜などの農産物をPRし、物販・産直コーナーでの販売促進と地域農林水産物の消費拡大を図り、産業活性化に繋げる。

推進交付金事業【大田市産品販路拡大重点支援事業】においても市産品の県外への販路開拓やアナゴのブランド化に取り組んでおり、本施設での地域商社機能による販路開拓、アナゴの販売や食での提供等により、両事業の相乗効果を高めていく。

- ・近隣道の駅には無く全国でも数少ない、常設の屋根付きイベントスペースや賑わい広場（屋根通路）を活用し、地域住民や各団体、学校等が、天候に左右されず気軽に参画でき、質の高い賑わいを創出する。

イベントステージには、当市三瓶山で来年開催される全国植樹祭において、天皇・皇后両陛下がお立ちになられる「お野立て所」（ステージ状の木造建築物）を移築し舞台として活用する計画としており、植樹祭の意義の伝承と循環型林業のPR、そしてイベントのグレードアップを図る。

ステージでは主に石見地方の伝統芸能「石見神楽」の上演を想定しており、市内で活躍する神楽社中や近隣の邇摩高校石見神楽部による公演によって、伝統芸能の保存・伝承と本施設の魅力向上を図る。

更に、イベントスペースや賑わい広場を活用した様々な企画（例えば地域の祭りや学校での活動成果発表、陶芸体験など）で地域住民や学生の参画を促すことで、推進交付金事業【大田の未来を切り開く人材の育成・確保促進プロジェクト】で取り組んでいる地域を担う人材の育成・確保を後押しする。

- ・農業経営者としての経営力やマネジメント教育を充実させた「自営就農コース」を本年度から新設した県立農林大学校と連携し、本施設において、育成した農作物の販売計画や収支管理などを含めたより実践的な教育（模擬経営の体験の場）を提供することにより、自営就農者としての資質向上、定着促進を図る。

また、近隣の島根県立邇摩高校（農業・ビジネス・生活・文化・福祉の5系列を有する総合学科高校）とも同様に連携し、授業で育成した農産物の販売、コラボ企画商品の開発、生徒の社会体験や地域交流による人材育成など、学校教育の場として活用し、他の高校では体験できないメニューづくりで学校の魅力化を推進し減少傾向にある生徒数の確保に繋げる。

併せて道の駅の魅力向上を図るとともに、社会体験等を通じ県外等の利用者と交流することで自らの地域の魅力を発見することによりふるさと愛を育み、地域の担い手の育成・確保に繋げ、推進交付金事業【大田の未来を切り開く人材の育成・確保促進プロジェクト】での人材育成・確保の取り組みと相乗効果を高めていく。

- ・近年キャンピングカー等の車中泊愛好家が増加しており、本施設で専用の有料駐車施設「RVパーク」の設置を計画している。

中国地方においては現在15箇所のRVパーク認定施設が設置されているが、そのほとんどは山陽側であり、山陰では島根県西部の美都温泉（ほぼ山口県寄り）に1箇所（2台分）設置されているだけである。

このため、車中泊愛好家は山陰地方を訪れない又は素通り、若しくは道の駅等での迷惑駐車に繋がっている状況である。

通常のRVパークは2～4台分でキャンピングカーの充電設備のみ整備されている施設が多いが、本施設では道の駅併設RVパークとし

ては多く中国管内でもトップクラスとなる5台分の駐車マスと充電設備に加え、他にも給水設備や汚水処理設備等を整備し、日本でも有数のRVパークとなる見込みである。

山陰道が開通しアクセスが向上することで車中泊愛好家の宿泊候補となり、車中泊愛好家向けのモデルルートを提案することでアウトドア派のファミリー層を取り込み、推進交付金事業【国立公園「三瓶山」を核にした観光振興】での三瓶山周辺へ誘客の取り組みと連携し相乗効果を高め、併せて琴ヶ浜といった自然観光スポットへの誘導と周辺温泉施設の利用促進を図る。

また、このRVパークは山陰側では設置が少なく、県内周遊観光における車中泊愛好家の周遊拠点となることが期待できる。

(副次的に、県内道の駅等で発生している夜間迷惑駐車や汚水処理によるトイレの汚損など、RVパークが無いが故の問題についても解消が図れる。)

- ・ 駅舎に近接して屋根付きのバス停を整備し、JR仁万駅と世界遺産石見銀山遺跡を結ぶ路線バスや山陰道を走る高速バスを引き込み、道の駅利用者を観光スポットへ誘導する交通結節点とする。GWや夏休み期間などのピーク時には、石見銀山遺跡の駐車場が満杯になるため、本施設からの石見銀山へのシャトルバスの利用を想定しており、行き帰りで立ち寄る観光客に対して、イベント参加による地域住民との交流の機会を設けるとともに、観光コンシェルジェによるその日のニーズに応じたきめ細かい観光情報を提供し、他の市内観光施設へ誘導していく。
- ・ 新型コロナウイルス感染症対策として、A・B棟に換気扇や換気窓を設置し、換気対策に対応する。また、什器等の配置に配慮し、三密の回避を図る。施設運営に際しては、国・県・市からのガイドライン、指導に基づき適正に運営していく。

#### ④ 事業が先導的であると認められる理由

##### 【自立性】

本施設運営にあたって、道の駅という特性を鑑み、道路休憩施設であるトイレや付帯駐車場の維持管理費については道路管理者である島根県及び施設所有者である大田市において負担するものであるが、物販や飲食等の地域振興施設に係る運営費については、指定管理者において全て道の駅での売上等の収入により賄うものとし、指定管理料は支払わないこととする。

また、一定以上の収益が計上された場合、規定に応じ収益金の一部を大田市に納付することとしている。

指定管理者においては、鳥取県「にちなん日野川の郷」、香川県「ふれあいパークみの」の2つの道の駅を既に運営しており、運営ノウハウを有していることから健全経営が期待できる。

さらに、物販や飲食提供に加え、市内観光施設や県内道の駅との連携による周遊企画開発、地域住民や学校等と連携した賑わい作りなど、道の駅の魅力づくりに積極的に取り組み、安定した経営を目指す。

#### 【年間収支計画】（レジ通過者36万人想定）

※近隣道の駅の道路交通量とレジ通過者の実績から本施設のレジ通過者を想定

収入も近隣道の駅の実績を参考とし、収入に合わせた運営に必要な人員や経費を想定して算出

＜収入＞356,830千円

|         |           |                                                   |
|---------|-----------|---------------------------------------------------|
| 物販      | 259,200千円 | 客単価1,200円(近隣道の駅実績、商品価格帯から算定)×216千人(36万人×60%)      |
| 軽食      | 54,000千円  | 客単価 500円(近隣道の駅実績、商品価格帯から算定)×108千人(36万人×30%)       |
| レストラン   | 36,000千円  | 客単価1,000円(近隣道の駅実績、商品価格帯から算定)× 36千人(36万人×10%)      |
| R V パーク | 1,642千円   | (2,000円/泊(他RVパーク料金を参考)+1,000円(汚水処理等)) ×5台×平均稼働率30 |

%×365日

自販機 5,000千円 (近隣道の駅実績から想定)

その他 988千円 広場使用料、EV使用料、ほか

＜支出＞344,454千円

売上原価 228,600千円 物販75%、軽食40%、レストラン35%（上記  
売上の原価率）

人件費 77,700千円 駅長、副駅長、正職員5名、パート延べ11  
名（想定利用者数、施設規模等を勘案し  
人役算定）

事業費 29,850千円 光熱水費（道路休憩施設以外）、維持管  
理費、消耗品費、役務費、営業費、ほか

一般管理費 3,000千円 交際費、租税公課、諸会費、雑費等

法人税等 5,304千円 約30%

＜差引利益＞12,376千円 ※市への利益分配金未計上（開業後5年間の収支状  
況により、健全経営を損なわない範囲で算定予定）

### 【官民協働】

○大田市仁摩地区道の駅整備推進委員会（官民による道の駅の在り方検討  
組織）の役割

※構成：島根県立大学、大田商工会議所、銀の道商工会、大田市観光協  
会、石見交通(株)大田営業所（路線バス運営）、大田市青年協議会、J  
Aしまね石見銀山地区本部、JFしまね大田支所、大田市森林組合、  
県立邇摩高校、銀の道商工会青年部、仁摩まちづくり委員会、NP0石  
見ものづくり工房、石見銀山ガイドの会、さんべ女子会、＜事務局＞大  
田市産業振興部

①本施設の運営方針や整備内容、官民の役割方針等、全体コーディネー  
トを行う。

○行政の役割

- ①施設の整備、維持管理を行う。
- ②施設運営の基本方針を決定し運営者と調整を図る。
- ③道の駅運営の監督・指導を行う。
- ④地域住民や団体、学校等の道の駅への参画を促し、更に道の駅運営者や事業者を繋げるコーディネートを行う。
- ⑤県や他市、観光協会等と連携し、大都市や海外への情報発信や、県内周遊の観光商品の造成・営業を行う。
- ⑥「美肌観光」といった県の施策や県立観光施設との連携し、取組の相乗効果と相互誘客を図る（例えば、道の駅を経由せず「サヒメル」や「石見銀山世界遺産センター」を利用された方への道の駅での食やイベントの情報提供等の連携を想定）

#### ○民間、地域、学校等の役割

- ①本施設については、民間の活力と経営ノウハウを取り入れサービスの向上を図るため指定管理者制度により運営にあたることとしており、この指定管理者を公募しあらかじめ指定管理予定者として選定(H31.1)した。そしてそのノウハウ等を運営計画策定や駅舎建築設計（動線、什器の配置や種類、デザイン等）に反映させている。また地域住民や団体等と信頼を築き連携を図るため、積極的に地域との意見交換を実施し、運営計画等へ反映することを想定している。

・指定管理予定者・・・(株)サクセス山陰（大田市大田町）※(株)サクセス（香川県高松市）が当市内に新規設立（R2.1）

- ②本施設の近隣に所在する島根県立邇摩高校（農業・ビジネス・生活・文化・福祉の5系列を有する総合学科高校）と連携し、授業で育成した農産物の販売、企画商品の開発、生徒の社会体験や人材育成など、学校教育の場として活用することで、学校と道の駅双方の魅力向上を図るとともに、ふるさと愛を育み、地域の担い手の育成・確保に繋げる。

また、邇摩高校では伝統芸能「石見神楽」を部活で取り組んでおり、

イベントステージでの上演により、部活動の成果の披露と「石見神楽」の伝承、その魅力の周知を図る。

③農業経営者としての経営力やマネジメント教育を充実させた「自営就農コース」を本年度から新設した県立農林大学校と連携し、本施設において、育成した農作物の販売計画や収支管理などを含めたより実践的な教育（模擬経営の体験の場）を提供することにより、自営就農者としての資質向上、定着促進を図る。

④農林水産物の直売をはじめ、広場・ドッグランなどの憩いの場やイベント運営等を通して、まちづくり委員会や青年・女性団体等の地域団体、地域住民等の参画を促し、道の駅の賑わい創出と地域住民の生きがいつくり、地域の活性化を図る。

⑤本施設に大田市観光協会が入居・常駐し、観光コンシェルジュによるきめ細かな情報発信と、大田市版DMOの展開により、観光入込数と観光消費額の向上を図る。

## 【政策間連携】

### ○観光振興

・当市における観光産業は、銀の産出で世界に誇る歴史と文化の「世界遺産」エリア（石見銀山や温泉津温泉等）、雄大な自然と太古のロマンに触れる「三瓶山」エリア（三瓶山や小豆原埋没林）、の大きな2本柱で成り立っている。

本施設へ立ち寄った利用者へ観光情報や周遊ルートを提案し、その歴史や壮大なロマンを実際に現地で見て体験していただき、その魅力を来訪者自ら発信するようなファンを作り上げていく。

また、自家用車や観光バスでの来訪が主である当市の観光であるが特に三瓶山エリアは顕著であり、本施設により山陰道利用者へのガイダンス機能を強化し、地方創生推進交付金「国立公園「三瓶山」を核にした観光振興」（大田市・飯南町・三郷町での広域連携事業）で開発された「三瓶山の持つ魅力を一層引き出すプログラム」を本施設で発信することで施策を後押しし、自家用車で移動するファミリー層や

R Vパークを利用するアウトドア派の車中泊愛好家を中心に三瓶山エリアへの誘導に繋げていく。

さらに本施設に観光協会が常駐し、観光コンシェルジュによるきめ細かな情報発信と大田市版DMOの展開により各取り組みの相乗効果が期待でき、観光客入込数と観光消費額の向上に繋げる。

#### ○産業振興

- ・地方創生推進交付金「大田市産品販路拡大重点支援事業」と連携し、市の特産品等を実際に販売しモニタリングすることで、市産品の販売促進と消費拡大、ブラッシュアップを図る。レストランや鮮魚コーナーで「アナゴ」を提供し、料理法の紹介や素材としての価値をPRし、日本トップクラスの漁獲量を誇る「アナゴ」のブランド化を後押しする。

さらに、本施設で地域商社的な機能に取り組み、本施設指定管理者である(株)サクセス山陰と関連する道の駅、鳥取県「にちなん日野川の郷」・香川県「ふれあいパークみの」をはじめ県外への販路を開拓し、販路拡大の後押しをする。

- ・農業経営者としての経営力やマネジメント教育を充実させた「自営就農コース」を本年度から新設した県立農林大学校と連携し、本施設において、育成した農作物の販売計画や収支管理などを含めたより実践的な教育（模擬経営の体験の場）を提供することにより、自営就農者としての資質向上、定着促進を図る。
- ・「公共建築物等における木材の利用の促進に関する法律」、「大田市木材の利用促進に関する基本方針」の趣旨に沿い、駅舎建築工事にあたっては木造部分の木材の大部分に大田市産木材を活用することとしており、地元木材の利用促進を図り、当市の基幹産業の一つである林業の更なる発展と活性化、担い手確保に繋げる。

具体的には、大田市有林から杉材を切り出し、建築工事とは別途発注により製材委託し、工事の際に支給する。

- ・屋根付きイベントスペースのステージには、市内三瓶山において開催される第71回全国植樹祭で天皇皇后両陛下がお立ちになる「お野立所」を移築し活用することを計画しており、植樹祭の意義周知と市内開催の伝承、循環型林業の推進を図る。

#### ○地域振興

- ・ 地方創生推進交付金「大田の未来を切り開く人材の育成・確保促進プロジェクト」と連携し、高校生への地域の魅力周知とふるさと愛の醸成、企業人の育成など、未来の大田市を担う人材の確保と育成を図る。

#### 【地域間連携】

本施設においてまずは山陰道利用者に向け周遊ルート提案等により市内各所へ点在する観光スポットや宿泊施設に誘導し入り込みを図るものであるが、山陰道を通らず山陽方面から直接三瓶山や石見銀山に来訪される観光客もあり、例えば三瓶山エリアでは県立三瓶自然館サヒメルや小豆原埋没林、石見ワイナリーなど、石見銀山エリアでは石見銀山世界遺産センターや石見銀山資料館などと連携し、各観光施設においても本施設の食やイベント等の情報を積極的に発信して各観光施設から本施設への誘導も図り、併せて宿泊に繋がるような市内での循環・滞在に繋がる取り組みを展開していく。

広くは、県内の道の駅で構成する「島根県道の駅交流会」や中国管内の道の駅で構成する「中国道の駅連絡会」と連携して、観光情報等の共同発信、広域観光ルートの企画・提案、地域製品の交流やフェア等の実施、道の駅カードやスタンプラリー等による各道の駅への立ち寄り企画などに取り組み、交流人口の拡大や地域製品の消費拡大を図り、道の駅全体の魅力底上げに繋げる。

特に、山陰道や国道9号といった幹線道路沿線の県東部道の駅（キララ多伎、湯の川、あらエッサ、たたらば壺番地等）及び県西部道の駅（サンピコごうつ、ゆうひパーク浜田）と連携して、山陰道開通による移動時間の短縮を見込み、観光情報の共同発信や広域観光ルートの企画・提案に積極的に取り組み、当市及び県西部のゲートウェイとして、県東部（出雲

部、特に出雲大社・松江城）に集中する観光客の県西部への誘客を図る。

また、本施設の指定管理予定者である㈱サクセス山陰（大田市）の出資会社、㈱サクセス（香川県高松市）が既に2つの道の駅（鳥取県日南町

「にちなん日野川の郷」、香川県三豊市「ふれあいパークみの」）を運営しており、各道の駅において特産品フェアや文化交流イベントなど県をまたいだ交流を積極的に行い、鳥取・香川の道の駅での当市の魅力発信による誘客はもとより、日南町と三豊市の行政とも連携しながら各自治体や道の駅の魅力を紹介・発信することで、本施設において常に新鮮で飽きさせない運営を目指す。

さらに、㈱サクセスは東京支社を持ち、首都圏との繋がりもあることから、指定管理者である㈱サクセス山陰が地域商社的な役割を果たし、連携する他道の駅をはじめ市外・県外・首都圏への販路先を開拓し、市産品の販路拡大を進め外貨獲得に繋げる。

#### ⑤ 事業の実施状況に関する客観的な指標（重要業績評価指標（KPI））

4－2の【数値目標】に同じ。

#### ⑥ 評価の方法、時期及び体制

##### 【検証方法】

毎年度6月に、「大田市総合計画・総合戦略等推進会議」において事業効果を検証する。

##### 【外部組織の参画者】

- ・「大田市総合計画・総合戦略等推進会議」・・・委員12名

構成員(団体)：商工団体、青年団体、女性団体、高校、大学、まちづくり団体、NPO法人、労働団体、等で推薦された団体

※R1実績は以下のとおりであり、同様の団体の選定を想定している。

島根県立大学、国立三瓶青少年交流の家、県立邇摩高校、大田市青年協議会、連合島根西部地域協議会大田地区会議、大田商工会議所、銀の道商工会女性部、大田市社会福祉協議会、湯里まちづくりセンター、中央ブロック公民館、NPO納川の会、大田駅前通り商店会

- ・大田市議会

### 【検証結果の公表の方法】

毎年度、市ホームページで公表する。

#### ⑦ 交付対象事業に要する経費

- ・ 法第5条第4項第1号イに関する事業【A3007】

総事業費 450,000千円

#### ⑧ 事業実施期間

地域再生計画の認定の日から2025年3月31日まで

#### ⑨ その他必要な事項

特になし。

### 5-3 その他の事業

#### 5-3-1 地域再生基本方針に基づく支援措置

該当なし。

#### 5-3-2 支援措置によらない独自の取組

##### (1) おおだの輝き発信事業

###### ア 事業概要

当市への更なる観光誘客を図るため、市外・県外への観光情報発信及び誘客、観光大使やマスコットキャラクターを活用した観光PR、外国人観光客を増やすための観光情報発信や市内観光関連事業者を中心とした外国人に対する受け入れ意識向上の促進を行う。

###### イ 事業実施主体

島根県大田市

###### ウ 事業実施期間

2020年4月1日から2025年3月31日まで

### 6 計画期間

地域再生計画の認定の日から2025年3月31日まで

### 7 目標の達成状況に係る評価に関する事項

#### 7－1 目標の達成状況に係る評価の手法

5－2の⑥の【検証方法】及び【外部組織の参画者】に同じ。

#### 7－2 目標の達成状況に係る評価の時期及び評価を行う内容

4－2に掲げる目標について、7－1に掲げる評価の手法により行う。

#### 7－3 目標の達成状況に係る評価の公表の手法

5－2の⑥の【検証結果の公表の方法】に同じ。